

## 平成30年度における独立行政法人農林漁業信用基金の 中小企業者に関する契約の方針

官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律（昭和41年法律第97号）第5条の規定に基づき、平成30年度における中小企業者の受注の機会の増大を図るための方針を以下のとおり定める。

### 第1 中小企業者の受注の機会の増大の目標に関する事項

#### 1 中小企業・小規模事業者向け契約目標

信用基金は、平成30年度における官公需予算総額に占める中小企業・小規模事業者向け契約の金額が約143百万円、比率が65.1%になるよう努めるものとする。

#### 2 新規中小企業者向け契約目標

新規中小企業者向け契約目標については、「平成30年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」（平成30年9月7日閣議決定。以下「基本方針」という。）において「新規中小企業者の契約比率については、平成26年度国等の官公需契約実績7兆4,278億円の約1%程度と推計されることを踏まえ、平成26年度比で国等全体として概ね倍増の水準となるよう引き続き努めるものとし、平成30年度新規中小企業者向け契約実績については、少なくとも前年度までの新規中小企業者向け契約実績を上回るよう努めるものとする。」と定められている。

このことを踏まえ、この目標の達成に資するよう、新規中小企業者の受注の機会の増大に努めるものとする。

#### 3 推進体制の整備

推進本部を設置し、本部長を総務担当理事とし、本部員を総務部長及び総務課長とする。推進本部は、基本方針に定められた措置等を推進するための体制を整備する。また、必要に応じて、信用基金の調達担当者に対し、調達先となる中小企業者・小規模事業者に関する情報提供を行うほか改善策を指示する。

### 第2 中小企業者の受注の機会の増大のために講ずる措置に関する事項

中小企業者の受注の機会の増大のために講ずる措置については、基本方針に即するとともに、各調達担当者は次の事項について取り組むこととする。

## 1 官公需情報の提供の徹底

一般競争入札による発注に関連する情報及びそれらに係る落札に関する情報についてホームページへの掲載により、中小企業・小規模事業者に提供できるよう努めるものとし、発注計画の策定が可能なものは、これを積極的に定め、ホームページへの掲載に努めるものとする。

また、少額の随意契約により発注する場合、オープンカウンター方式により見積書を聴取することが適当でないと認められる場合を除き、オープンカウンター方式により、見積りの相手方を特定することなく調達内容・数量等を公示し、参加を希望する者から広く見積書の提出を募るものとする。

## 2 中小企業・小規模事業者が受注し易い発注とする工夫

中小企業・小規模事業者が入札等に余裕をもって計画的に参加できるよう、仕様の内容に応じて適切な公示期間を設けることに加え、必要に応じて説明会を実施し、説明会から入札までの期間を十分に確保する取り組みを継続する。

## 3 官公需に関する相談体制の整備

総務部総務課の職員を「官公需相談窓口」とし、中小企業・小規模事業者からの官公需相談に適切に応じ、官公需情報入札に関する参加資格登録などの情報を提供するなど必要な指導に努めるものとする。

## 第3 新規中小企業者及び組合の活用に関する事項

新規中小企業者等の活用のために講ずる措置については、基本方針に即するとともに、次のとおり取り組むこととする。

### 過去の実績を過度に求めない運用

一般競争入札において、契約の履行確保に支障がない限り、評価項目を設定するに際しては、過去の実績を求めない、又は過去の実績に係る評価が過大なものとならないよう配慮するものとする。

なお、少額の随意契約を行う際、オープンカウンター方式によらない場合には、見積先が固定化しないよう独立行政法人中小企業基盤整備機構の提供する「ここから調達サイト」の情報などを活用し、小企業者を含む小規模事業者や調達実績の少ない新規中小企業者からも見積書を取得するよう努めるものとする。

## 第4 第1～第3に掲げるもののほか、中小企業者の受注の機会の増大に関

## し必要な事項

本方針の適用範囲

本方針は、全ての調達担当者に適用する。